



# 川の国埼玉はつらつプロジェクト完成。

川の国埼玉はつらつプロジェクトは、県と町が連携して地域の共有資産となる水辺空間を整備・拡充し、人もまちも川をはつらつとなるよう利活用を推進するプロジェクトで、中心市街地活性化基本計画にも位置付けられています。平成29年度から県と町がそれぞれ親水広場や遊歩道等の整備を進め、この度、整備が完了しました。



①あずまやからの景色 ②紅葉時の園内  
③雀亭を模したあずまや ④園内にかかる橋  
⑤アスファルト舗装された園路

歌舞伎の名優・七代目松本幸四郎の別邸跡地である雀宮公園。自らの著書「松のみどり」(1937年刊)では「私は山の景色が好きですが、就中溪流が大好きで青葉時とか紅葉の頃に岩に激し、涼々として流行く京都の保津川下りなど殊に好みまして度々やりました。(中略)秩父の長瀬と寄居の間七里の溪流が保津川に劣らぬところだといふことを聞いて行ってみました。そして大いに気に入ったので直ちに膝を容るゝに足るだけでは御座いますが別荘を建てたので御座います」と記されています。この別荘が「武州寄居町雀亭」であり、昭和初期まで存在していました。雀亭の跡地は市街地の住民を中心に「雀宮公園」として親しまれてきましたが、長きにわたり閉鎖されていました。町では、平成29年に敷地を取得し、年々整備を重ね、今回のプロジェクトでは、幸四郎の安らぎの場、そしておもてなしの場

## 七代目松本幸四郎別邸跡地 雀宮公園

ととして愛された「雀亭」をイメージしたあずまやを建築。公園中央部には、北側と南側を結ぶ橋を設置しました。また、ウッドチップを敷き詰めた園路のほか、車いすの方でも散策できるよう配慮したアスファルトの園路、さらには、訪れる方の利便性を高めるため、新たに公園東側に駐車場とトイレを整備しました。

これからの季節、もみじやイチヨウが色づくこと、公園内には、素晴らしい光景が広がります。その景観は、隠れた紅葉の名所として近年人気を博しています。市街地にありながらも、自然豊かな景観を鑑賞できる貴重な公園となっています。

また、今回整備された仮称・玉淀親水遊歩道を通り、雄大な荒川の景色を楽しみながら直接、玉淀河原までの川沿いを散策することができるようになります。

幸四郎が愛した古の雀亭に思いをはせ、荒川沿いを散策してみたいかがでしょうか。

開園時間 4月～9月…午前9時～午後5時  
10月～3月…午前9時～午後4時

玉淀河原から雀宮公園までの河川敷には、新たに幅約2メートルの遊歩道(仮称・玉淀親水遊歩道)が県により整備され、11月7日に開通します。これにより、玉淀河原から雀宮公園へ直接アクセスすることができるようになり、これまで歩いて通ることのできなかったルートが開通され、



仮称・玉淀親水遊歩道(玉淀河原～雀宮公園)  
11月7日開通!



石畳風舗装



カラーマンホール蓋

玉淀駅から玉淀河原までの約1.4キロメートルの区間を、玉淀遊歩道として整備しました。景観に配慮し、町道部分は、石畳風の舗装を施し、雀宮公園には、ダークブラウン色の防護柵を設置しました。公園前は、車の通行性を向上させるため、道路を拡幅しました。

また、寄居城北高校の美術部がデザインしたカラーマンホール蓋を設置しました。2種類のデザインがあり、正喜橋通りを境に西側は夏場の河原利用者で賑わうため、荒川の青色を基調とした蓋「荒川と桜、寄居町」を14枚設置し、東側は、紅葉の時期に訪れる方が多いため、クリーム色を基調とした蓋「空に舞う」を19枚設置しました。

また、玉淀河原への入口付近には、姉妹都市である小田原市、八王子市、そして寄居町のカラーマンホール蓋を設置し、石畳風の舗装に加え、遊歩道にアクセントを加えています。



玉淀遊歩道(玉淀駅～玉淀河原)

今後は、町と地域住民との連携により、歴史、文化、自然を楽しむことができる施設として、訪れる観光客をまちなかへ導き、回遊性を高めることで、賑わいの創出につなげていきます。



親水広場



親水護岸

## 親水広場・親水護岸

玉淀河原へ降りるためのスロープと一部芝生張りの広場を整備し、河川敷内には、イベント等で活用できるように階段状の護岸を設置しました。



玉淀河原～雀宮公園間が開通します。



荒川沿いの素晴らしい景観を楽しみながら、散策できようになります。